

企画にあたって

泌尿器科に限らず、さまざまな医療分野における基礎から臨床までの領域が目覚ましい発展をなしている。多少関わったことのある領域ですら、少し距離を置いているうちに自身の知識や経験が著しく遅れてしまうことをしばしば経験するようになった。通信技術の発展が、医療分野の加速的発展の一助をなしているものと考え。

日本の腎移植の6割以上が泌尿器科医によってなされている。しかし、多数の泌尿器科医にとって腎移植は身近にある医療ではなく、そのために敬遠しがちになりやすい。敬遠されがちな医学領域ではあるが、多くの基礎研究者および臨床家によって、腎移植領域も目覚ましく発展しており、少し距離を置くと、最新の情報が理解し難くなっている。

移植において最も重要な基礎と臨床医学は抗体産生の機序とその抑制法にある。また、移植術を滞りなく遂行する技術修得とその発展、透析を経ない先行的腎移植の増加とその問題点、動脈硬化の著しい症例や小児例などの特殊な移植の理解とその技術、免疫抑制法の発展とその応用や適正治療濃度が狭い免疫抑制薬の

therapeutic drug monitoring (TDM) の理解と応用、移植後患者ケアに携わるレシピエント移植コーディネーター (RTC) の設置など、多岐にわたる新規の知見が得られ、新たな取り組みがなされている。

そこで、このたびの本特集を企画するにあたり、①基礎(HLA 情報と ABO 不適合移植の免疫応答抑制)、②ドナー腎採取術 (単孔式生体ドナーと脳死下臓器提供)、③先行的腎移植、④特殊な腎移植 (動脈硬化と小児)、⑤免疫抑制法と TDM (抗体陽性移植、ステロイドフリー、TDM の重要性)、⑥移植後患者ケア (RTC) の6領域11分野に分類し、各分野の Opiniオンリーダーや新進気鋭の先生方11名にご執筆いただいた。

本特集が腎移植に関わる先生のみならず、多くの泌尿器科医の知識や技術の発展の一助になれば幸いである。

秋田大学医学部附属病院
腎疾患先端医療センター
佐藤 滋